

新板
繪入

風流女評刺

三

671
3



三

鬼^{おに}の来^きて陽^{やう}落^{らく}る^る愛^{あい}魂^{こん}

世^よ王^{わう}の七^{しち}百^{ひやく}系^{けい}不^ふ審^{しん}
食^{じき}議^ぎ募^ぼく^くの根^{こん}元^{げん}

空^{くう}分^{ぶん}別^{べつ}不^ふ

滝^{たき}川^{がわ}流^{りゅう}捨^{しや}の

志^し

一 志と玄常への道さゆせ中

白衣^{はくい}の上^{のうへ}よと玄^{げん}紋^{もん}の淺^{あさ}黄^{わう}上^{のうへ}下^{のした}脇^{わき}指^{さし}を自^{みづか}成^{なり}す
色^{いろ}さひそゆるぬ悲^{かな}しとんせす身^みれよよ文^{ぶん}を元^{げん}
君^{きみ}の古^{ふる}寂^{じやく}もよあづるしれあきべ恨^{うらみ}とへんすさ
了^{りやう}たづるまほふきふか身^み別^{べつ}とあるまきとすこいひ
奇^きざりしと。鬼^{おに}鶴^{つる}と蛟^{せう}しそ會^{あひま}者^{もの}定^{さだ}離^りの理^り。そ
も遁^{にん}たき人^{ひと}界^{かい}りる。凡^{おほ}君^{きみ}れ送^{おく}言^{げん}よまを黒^{くろ}き
あきくう送^{おく}まありせし。のねこ。おの男^{おとこ}女^{めづ}あつていて
世^よ別^{べつ}離^り苦^くの悲^{かな}もる方^{かた}そ有^あしと。つて。ねるねまき
何^{なに}とあふ相^{あひま}後^ご然^{ぜん}くせの首^{くび}拿^とる。そ。場^ばを海^{うみ}法^{ぽう}
事^{こと}金^{かね}のあらしと披^ひバ



越ゆる書をむ久あゆみん候れんをさく。あうま
 手あやよりさひの介ある心ごうしそし。いふ
 此遠言あまむとく大分れ法をゆづらま原山懸を
 うく身身の又と書をとすねべきやげ後ハ倍あがら
 家内あま也はあつくいよし。いふ。いふ。いふ。いふ。
 と。そまらりきよよ云付く。それく。いふ。いふ。いふ。
 一。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 尾尾所加下屋をよ下し。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 極月十九日候。宅お仕舞。又の介あつてハ。いふ。いふ。
 所もし百ありと。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 一。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

神お下る。来喜子とよら。おのよら。いふ。いふ。いふ。
 し。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 菟は打糸。箱あれ。色茶危。可笑う。す。鐘本所
 又向をせす。新三十石中。れ。同借。切。上下。式人。よ
 廣。古。ゆ。を。と。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 と。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 女。お。く。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 心。ご。う。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 と。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 念。比。の。有。と。く。え。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
 り。あ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

「あつちく」四角ハ舟次にて有き。半遣馬子ハ人
根を去理と云。奴と梅子を突く。宗合ハ人々も梅
戚勢又思一云。ぬ人毛有。小人の伏せし角氣
口傍く一勝。又手と龜。肉より。幾度打果さん
と云。大強カ。お手あ。お手。い。せん。心と。碎と
た七竊。梅子を。同ハ。私且。形云。尾。方。又。初
さ。小人。あ。く。さ。お。手。ハ。相。撲。五。勝。態。固。意。と
やらん。宗。合。を。は。落。し。笑。大。坂。下。は。う。し。あ。ん。ぎ
あ。の。の。と。宗。合。只。今。め。い。く。水。宗。下。され。と
と。同。と。あ。が。す。の。あり。と。何。と。ぞ。思。あ。不。定。有
何。と。と。台。肥。又。推。灯。れ。志。ん。さ。せ。た。七。声。を。け。

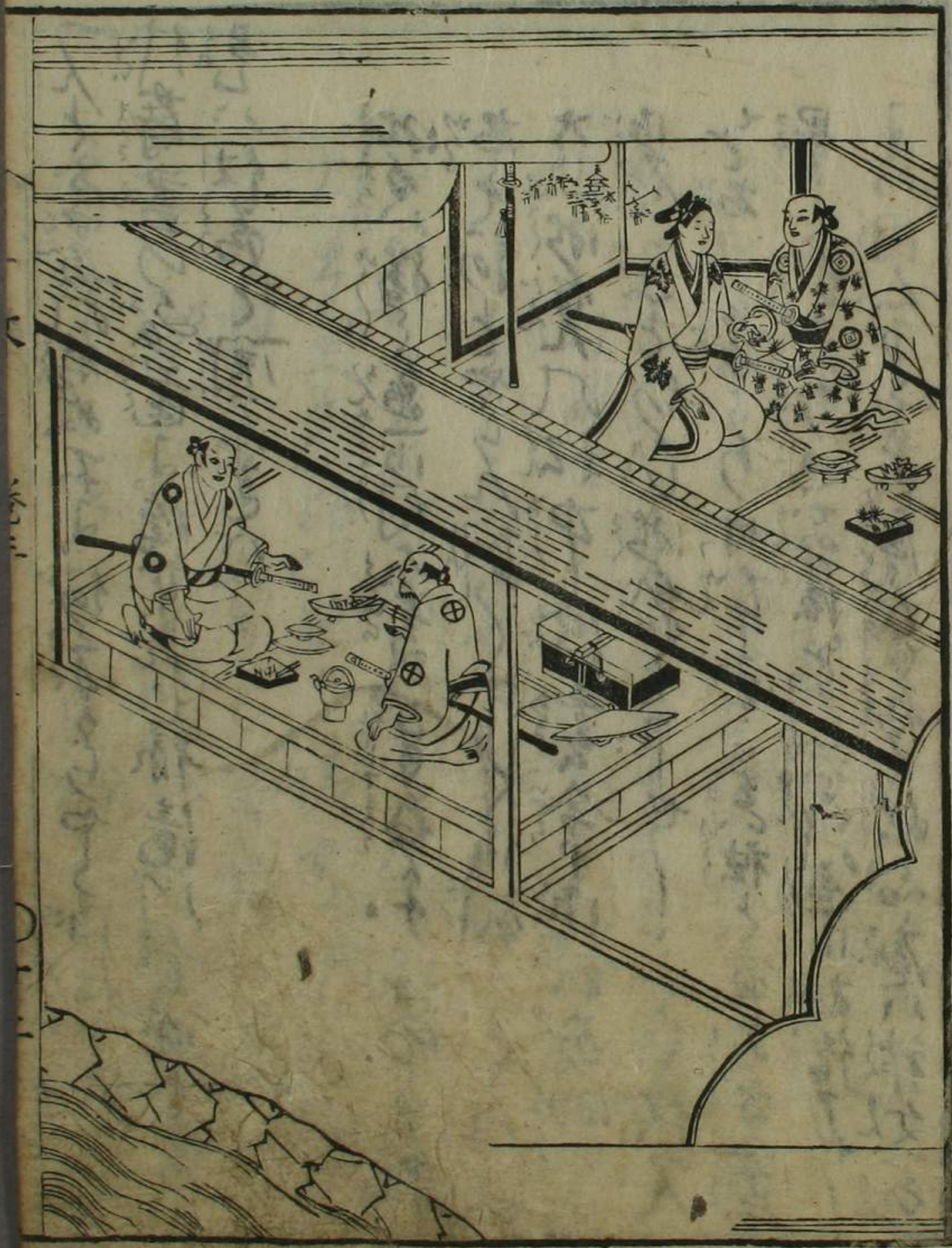
宗合あつちく。家ハ梅志。梅。あ。と。小人。は。向。ひ。あ
あ。と。よ。ハ。宗。合。あ。き。人。ハ。秘。す。た。石。と。心。と。つ。く
何。ら。と。い。い。さ。ま。深。い。水。枕。と。あ。り。海。を。バ。う
て。ち。腹。の。ま。き。さ。り。も。の。う。す。必。お。ん。よ。う。け。ら。と
あ。と。が。う。し。つ。を。梅。勝。態。又。思。い。心。れ。せ。ら。あ。る
神。膏。より。形。り。と。と。さ。り。去。あ。る。小人。の。あ。り。お
迷。い。心。を。あ。ま。し。い。何。と。そ。れ。換。授。中。さ。ん。梅。志。れ。ら
了。一。中。の。石。廣。し。い。方。ハ。水。鏡。と。と。固。志。事。を。我
が。よ。ろ。り。あ。い。自。然。が。さ。ハ。大。坂。尾。尾。所。よ。れ。有
梅。中。た。ん。せ。と。中。の。形。ま。ハ。勝。態。固。意。を。あ。と。や
あ。と。く。水。面。を。見。知。り。能。打。あ。り。同。よ。り。何。

かきよ夜をうらと防小竹筒有と。右のよきかきよ
の酒先一つとあはれなるに進之の上よれ七去れ
おんよ入すどききことばは去る人をはなれ
まをばきく何のよき香といはれらるまどきき
と糸合を中といひ地獄をこころよれを
を北とい長人争ひ。そよれ快きこころを血氣
よよのあはれとすく通信をわたりなす。時か
隙分は五持やうくと余多ありのハ固を築て
た標よきバ。何よかきよ。なはれとすくを
深れよえん守。標とす。おあはれを
すよのよと。人中のよ去暮くしらすすのり

さつと舟を非もり。あはれく撒きのよとあひした
は標よ速くゆらと上。海大分は酒は輝速れるよ
所先あはれ。軒屋を二度と言。標よを在橋く
流るる息。寛た七仁海。一ちと角。糸よんす
宗早列のゆえあ。し。舟付とくも。和をきれ
心易とすまよ。相厚は。ん。應。示。後。武。れ。令。の
親。は。礼。中。上。厚。き。や。り。何。と。親。れ。色。面。よ。余。
糸合れんぐも。骨。を。れ。き。き。よ。く。ハ。早。大。り。こ。そ。
あま。く。ま。の。い。く。あ。舟。よ。糸。合。せ。り。一。應。情。や。と。お
り。い。つ。は。何。方。板。の。お。親。あ。く。四。海。波。動。よ。園。を
治。り。時。津。風。く。舟。ハ。八。万。尾。よ。志。ぬ

とを候へば、まゝに、
のとおもふ心慮を秘し、
さく果るそなふ意あらず、
ハ一命捨てるの事、
ハ内褶の内、
兵有らば、
は逢しと撰を立、
危敷くとも、
守く、
大新れり、
ける候、

婿と枕二つを、
蟬と、
逢ら、
れ、
り、
せん、
は、
が、
胸の、
慕、
く、



又と不審に曉ぬ下。何れかやらや。此の状といふ時
代蔭畫の文道。橋がたれ七橋滝川金河とあり。
是ハ仕為と用ふべきハ

此の橋は魚川大妻に在りて橋の
おそ何とやら。訓くく。此の
大一。此の字。命。由。新。友。の
此。原。此。の。ひ。此。然。中。せ。し。く。伏。不
を。お。善。より。日。在。ま。独。と。有。る。者。出。意
量。と。此。及。打。込。の。後。を。忘。不。再。通。此。相。徳。中。せ。し
は。何。ん。下。と。此。厚。を。移。松。心。座。ハ。神。文。志。

中上人の扱尼下さる。い。い。後。此。心。は。合
さる。ゆ。ゆ。ん。の。此。を。之。通。る。此。新。ま。る。く
凡。之。怨。業。ハ。私。を。云。け。身。切。く。此。同。は。多。一。ア。ウ
あ。う。で。是。の。ま。ん。ま。ん。ま。の。ど。く。な。る。ま。は
い。い。し。日。七。十。七。月。を。あ。り。は。信。あ。へ。の。壁
折。紙。中。く。も。此。於。不。同。心。を。信。あ。く。由。本。安
る。ゆ。くれ。と。身。を。恨。有。人。何。と。そ。ん。を。信。は
天。玉。子。の。一。糸。指。ハ。賊。中。信。ち。え。一。糸。指。く
と。此。同。く。中。へ。き。と。書。身。之。を。未。ま。い
く。一。糸。指。ハ。信。信。叶。ハ。信。此。人。あ。ら。ん
そ。ん。え。く。是。信。神。ハ。此。下。さ。る。く。

一
文
三

先中上へきよまなえへおぬ具に色あはる尾
うくまゝく糸山をまき下さるる者何
とそ求むるあぐりくくはる

十二月十七日

滝川金河

橋た七様

糸くの中

お一通を足さへお棟を馬車しうらま

記請文之事

一お慈量とお思とよ強きまを度礼

兄弟の契物仕止上生人の外は福原中人有
糸斗を信らしき我は男安し

一私身持てお何ゆり守半云様は佐
紙少をお中乃布しをある私下
うくく免あきり若水内遠をてめ

お銀を信する人々通中分一仕事

一そち様お上り方よ一山大りち来ん主人
親たり不顧形糸糸牙成為よ一命を捨

一主人御道強自あめく山同く下りし
くそふ叶糸抄の祈活しし叶

尾山とては此の御殿に在りては御座り候
極よ侍り候と申すは今も御座り候極山に
申す候とては此の御殿に在りては御座り候
申す候とては此の御殿に在りては御座り候

一 脇目角入元極又ハ在り候とては御座り候
申す候とては此の御殿に在りては御座り候
申す候とては此の御殿に在りては御座り候
申す候とては此の御殿に在りては御座り候

とて候とては此の御殿に在りては御座り候
一 昨今とては此の御殿に在りては御座り候
申す候とては此の御殿に在りては御座り候
申す候とては此の御殿に在りては御座り候

十二月十七日 滝川金平

橋本左七殿

別の下血染よ時ありぬとて候とては御座り候

嬉しくも調女にほね。そは打くお合く
またどくくね中とど

三 鬼の来く陽あつる醜

深思必天通神以夢告之と名久女者信もた
へ。何とやら心よ急な事せり。心は寝れもど現れど
とく。かよ青鬼の来く。人の志を神おす。恨と
く。さきさき事より陽あされ。大汗は流く。そまよ
アハ目を合す。悲び子。玉れをどけく。く。か。その
境川に流勢ね色加く。の。何万。是。ち。の。よ。お。を。を
と。き。天。海。な。れ。は。状。と。い。よ。何。は。皆。ま。ご。の。難。ぬ。う
是ハ心えありとん事か

しるの折。云。出。身。信。も。中。上。ず。人。物。堅。固。な。き
と。蘇。な。く。と。な。も。存。人。私。も。無。恙。は。有。り
く。打。も。お。へ。私。自。自。が。る。も。主。人。心
付。中。さ。ま。し。や。い。申。へ。諸。事。合。点。ゆ。ぬ。成
信。尚。之。有。福。字。と。た。り。ま。た。ぬ。事。加。え。ぬ
と。え。の。出。本。布。斗。者。中。人。け。神。に。ら。が。る。お
食。後。い。く。中。さ。る。急。き。を。知。ぬ。も。と。存。ら。ぬ
ヶ。極。の。も。さ。く。申。も。な。も。も。何。の。苦。も。あり
ア。ん。桑。先。ま。目。を。痛。事。と。中。り。過。り。き
く。と。な。存。人。一。先。ハ。親。え。へ。毛。海。中。な。も。存
へ。た。伏。え。ら。り。ハ。さ。え。へ。の。使。を。極。え。く。難



平〜〜とそいふのははら〜〜と心毎月中の氣
 内同がらと平〜〜と心づけと九日外生玉七言
 氣とヤ毎日〜〜と元〜〜と〜〜と〜〜と
 此〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と〜〜と
 凡合平〜〜と何〜〜と〜〜と何角平
 お談平〜〜と〜〜と角氣を〜〜と〜〜と
 盤東を〜〜と〜〜と〜〜と

流川重保

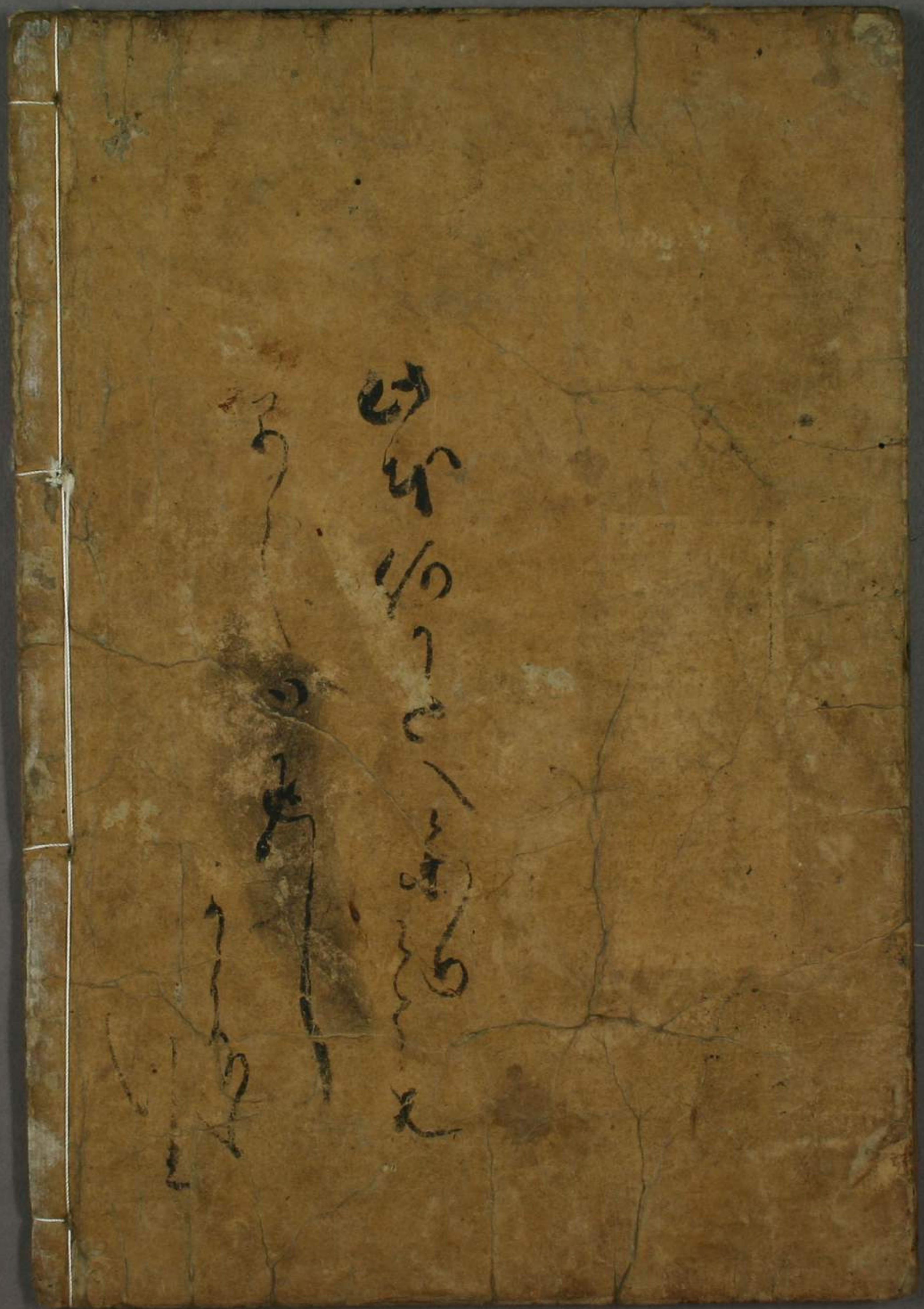
正月廿二日

橋た七様

けみをとんく心あ〜〜と角氣をお〜〜と〜〜と
 けみをとんく心あ〜〜と角氣をお〜〜と〜〜と

蹴鞠蹴入をへるや一は心はぬりのれまの樹ハ
抄をくも大せり加る香也布ハいさうく抄を
又せよとやされし故無の方ふあ焼くとせよは那も
心急や血脈加くと穢色をせし原氏ハ畫し
帛ハと責らま二才の迷惑し時と氏神祈を帽ハ
美ハ共くとせしとふそ居守をせよとせよと
目ハ是とく所相成りまると唯けらまるとせよと
二奉安ち遠とハ急と心付くと秋げ年月
ふはと加しとの四方が九極のふハ有と
あひしと眼鏡の遠し口惜と左右とせよと
まうとせよとふとふとふとふとふとふとふと

ゆりやハ知ぬと有るをせとわつて固き男
ぬ憎家名とつとつた去べきん座たあまのい方
とく適分金後ととげ兄分字付は東急及恨と云
べしと方と手打とせよとせよとせよとせよと
親とこれ嘆きんあそ余をあきれは美く賜き也
の目あり伏見へ海とと中飯とと回とと舟とと
園と美と恰とそ尾大ハ入私方とと親兄分を
まは科ハ親牙有る様ハ存分とあるととへ
きとあるととととととととととととととと
目果とくととととととととととととととと
ばら為ととととととととととととととと



Handwritten vertical text on the right side of the cover, likely a title or a reference number.

Handwritten text on the left side of the cover, possibly a title or a dedication, written in a cursive style.